

## 『残心 (ざんしん)』をとる！がんばれ3年生！！

今日は山梨県でも朝から雪となり、立春を過ぎたとは言え、まだまだ厳しい寒さが続いています。新型コロナウイルスの感染拡大は、まだまだ予断を許さない状況が続いています。山梨県も日々の新規感染者については、高止まりの状態が続いています。臨時特別協力要請期間も20日まで延長されることになりました。本校でも、これまで学級閉鎖の措置をとらせていただいた学級がありました。昨日まで感染対策の措置ということで、甲斐市内の小中学校は分散登校を行っていましたが、先日通知させていただいたように、本日から感染拡大防止に努めながら、通常登校を行っていきます。ご理解とご協力をお願い致します。各家庭におかれましては、これまで以上に、家庭内の感染防止に努めていただけるよう、また日々の健康チェック表の提出に、ご協力をお願いいたします。また、HP等でもお願いさせていただいているように、不要不急の外出を控える等、継続した感染予防対策（3密を避ける 手洗い消毒 マスク着用）の徹底をお願いします。お子さんはもちろん、同居家族においても体調のすぐれない時には、積極的に登校を控えていただくとともに医療機関等の受診をお願いします。また、PCR 検査等を受けた際は確実に学校まで連絡をお願いします。

『残心 (ざんしん)』という言葉があります。多くの人にとってなじみのない言葉かも知れませんが、でも、なぎなた部の生徒や武道をしている生徒は、学んだことがあると思います。この言葉は、武道の言葉として古くから伝わる言葉です。稽古中に使う言葉ですから、一般的には知らなくてあたりまえだと思います。この言葉のように、日本人は、様々な分野において、伝統的な武道や芸道から生まれた言葉を活用しています。知っておくと役に立つと思います。

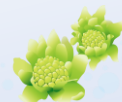


さて、『残心』の言葉の意味ですが、文字通り「心を残す」ということです。しかし、「心残り」という意味ではありません。例えば、なぎなたで言うと（本校のなぎなた部の顧問の伊藤先生に聞きました）相手を正確に打っただけでは、有効な「一本」にはなりません。打っただけではだめなのです。打った後も姿勢を崩さず、気力は途切れさせず、相手の次のどんな攻撃に対しても対応できる心構え、気構えがあること・・・、これがなぎなたで一本を取るための重要な要素であり、『残心』なのです。つまり、なぎなたでは、相手を打つことが目標になるのですが、相手を打った後、「放心 (ほうしん) 状態」になってはいけないということなのです。このように考えると、『残心』とは『放心』の逆という意味と考えてもいいかもしれません。

これを現在の3年生に応用してみます。現在3年生は、入試に挑戦しています。私立の推薦入試、公立の前期入試が終わり、これから私立の一般入試、来月には公立の後期入試等と続いていきます。また、少しずつ合格の内定や不合格の結果が届いています。8日（火）には前期入試の合格内定者の発表がありました。このような時期だからこそ、結果がどうであれ、放心状態になってはいけないのです。最終的に合格したり、成長したりする人は、ここで崩れないのです。それぞれの立場で、自分を見失わずに、「今すべきこと」や「次にすべきこと」を考えて行動して欲しいと思います。『残心』とは勇気をだして挑戦した後も気力を途切れさせず、「放心状態」にならず、「さあ来い!」「さあ行くぞ!」という気概で、自分自身を崩さないようにすることです。合格内定をもらった人は、うれしさでいっぱいですが、その結果は自分の力だけでなしえたものではありません。みなさんは、これまで、仲間とのチームワークと絆でここまでできたのです。「3年生全員の進路決定・全員合格」という目標に向かって、最後まで全員で頑張りましょう。全員がそれぞれの立場で「今からの自分はどういう態度でいるべきなのか」をしっかりと考えて欲しいと思います。一人一人の人間性が問われるときでもあるのです。不本意な結果の場合もあります。しかし、全力で頑張ってきた自分を否定することはありません。今回の結果は、進路確定までの通過点

に過ぎないわけですから、合格内定、不合格を問わず、全員合格達成、全員の進路決定までは「自分ができること、すべきこと」を判断し、最善の努力を続けていきましょう。

うららかな春は 厳しい冬の後に来る



可愛い ふきのとうは 霜の下で 用意された (宮本百合子)

厳しい冬の後には、うららかな春が来ることを信じて、3年生みんなで、入試を乗り越えていきましょう!

## 大活躍の玉幡中生! アンサンブル・ソロコンテスト

昨年の12月18日(土)に行われた山梨県アンサンブルコンテストで金賞を獲り、3年3組臼井真希さん、3年2組白川想乃美さん、福島叶望さんが、山梨県代表として1月29日(土)に甲府市のYCC 県民文化ホールで行われた西関東アンサンブルコンテストに木管三重奏の部門に出場しました。コロナ禍のなかの大会ということで無観客で開催されました。3人は練習時間のないなか、また受験勉強もあるなか、ベストを尽くし、見事銀賞を獲得しました。「あきらめかけたこともあったけれど、仲間がいたから頑張ることができた」(真希さん)「いつも通り演奏することの難しさを痛感しながらもよい演奏ができた」(叶望さん)「日々の努力の大切さを改めて感じることができた、悔いのない演奏ができた」(想乃美さん)と話してくれました。練習もままならない、本当に厳しい条件のなかでしたが、全力を尽くして頑張った3人の笑顔は、とても爽やかでした。



2月5日(土)には、県管打楽器ソロコンテストが、北杜市の須玉ふれあい館で開かれ、3年3組の藤巻利一さんが、県知事賞(金管部門1位)を、3年2組の福島叶望さんが、北杜市長賞(木管部門2位)を受賞しました。また2年3組の宮下紗綾さん(打楽器部門3位)が入賞を果たしました。利一さんと叶望さんは、23日(水)に行われる関東甲信越支部大会へ出場します。利一さんは「厳しいコンディションだったけれど、応援してくれた方々のために最後まで頑張ることができました」、叶望さんは「前半はよかったが、後半は思う通りの演奏ができなかったので、受験もあるが両立させて次の大会も頑張りたい」、紗綾さんは「初めての大会で、仕上がるかどうか不安だったが、頑張ることができ、貴重な経験になった」と話してくれました。コロナ禍のなかでも、あきらめずに、頑張り通した3人から、私も元気をもらうことができました。



## たくさんの賞をいただいています

玉幡中学校の生徒たちが様々な分野で活躍をしてくれています。これまでの活躍や努力に対して、玉幡中学校にたくさんの賞をいただきます。これからも周囲から、地域から応援されるような学校を、生徒、教職員とともに努力を続けていきたいと思っております。らもご支援よろしくお願ひ致します。

- ☆山梨県医師会学校保健推進優良校 学校表彰
- ☆全国中学生人権作文コンテスト感謝状
- ☆中学生税の作文コンクール感謝状

